６３６１－１００５
平成２３年５月２７日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第２号

いちごの病害虫対策についてとりまとめましたのでお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

次期作の安定生産のために、親株や育苗床の病害虫対策を徹底しましょう。

１　作物名　　冬春いちご

２　病害虫名　　うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類

３　発生状況（経過）

１）5月の巡回調査における親株床でのうどんこ病の発生は、発生面積率が60.0%（前年83.3%、前々年12.5%）で調査が行われた6年間で3番目に高く、発病葉率が15.3%（前年10.9%、前々年0.9%）で6年間で2番目に高くなっている。

２）ハダニ類の発生は、発生面積率が80.0%（前年50.0%、前々年37.5%）、寄生株率が24.0%（前年6.5%、前々年3.8%）でいずれも6年間で2番目に高くなっている。

３）アブラムシ類の発生は、発生面積率が70.0%（前年66.7%、前々年50.0%）で6年間で1番高く、寄生株率が22.2%（前年5.0%、前々年12.5%）で6年間で2番目に高くなっている。

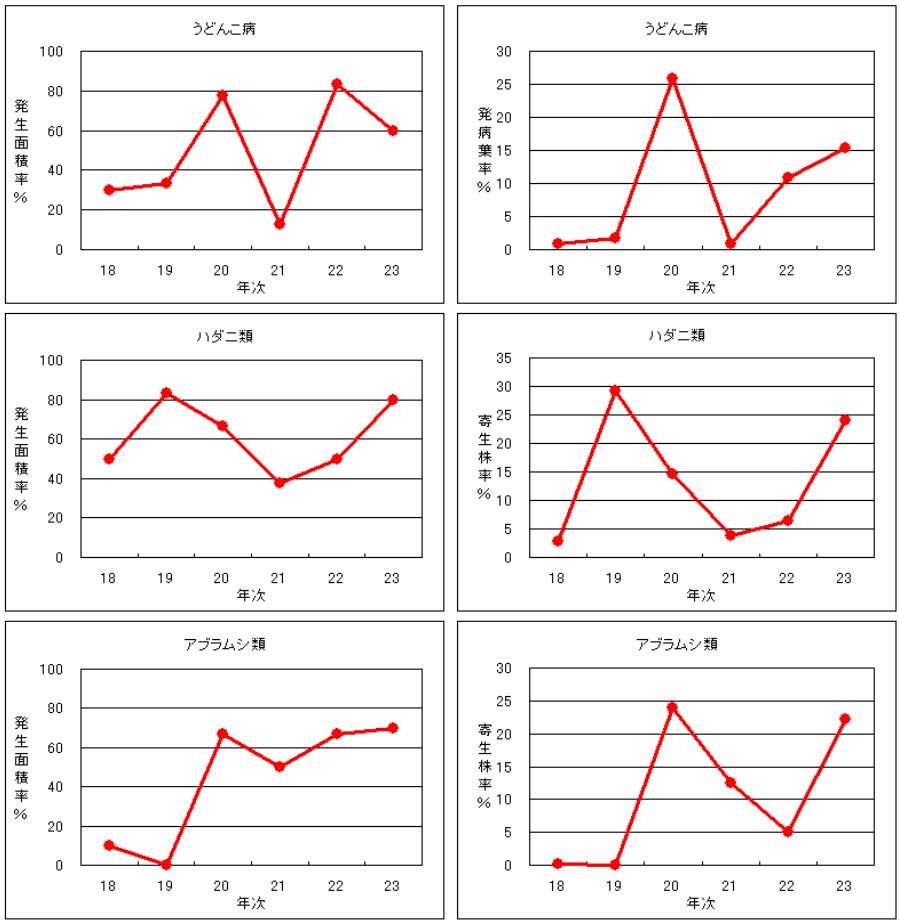

図１　親株床での病害虫の年次的発生状況

４　防除上の注意

１）うどんこ病

(1)うどんこ病は、育苗圃で発生が多いと本圃でも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成する。

(2)栽培にあたっては、通風や日当たりを良くし、適正な肥培管理を行う。

(3)うどんこ病に罹病した葉等は適宜摘除し、親株床内に放置せず、ビニル袋に密封するなどして適切に処理を行う。

(4)うどんこ病は夏季高温期には病勢が抑えられ、目立たなくなるので、菌の確認が容易な今の時期に徹底して防除する。

(5)薬剤耐性菌が発達しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。

(6)いちご栽培における薬剤の使用回数は、親株からランナーを切り離した段階から収穫終了までをカウントする。このことをふまえ、農薬の総使用回数に注意する。

２）アブラムシ類、ハダニ類

(1)ハダニ類は発生初期はスポット的に寄生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

(2)アブラムシ類、ハダニ類は、いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期の内に、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。

(3)アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。

(4)アブラムシ類、ハダニ類が寄生し劣化した葉は適宜摘除し、親株床内に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。

(5)アブラムシ類、ハダニ類はいちご以外の植物にも寄生するので、親株床内及び周辺の除草を行う。

(6)薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

いずれの病害虫も本圃に持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会してください。また、農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

《連絡先》
宮崎県病害虫防除・肥料検査センター　　壹岐
TEL :0985-73-6670　FAX :0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ : http://www.jppn.ne.jp/miyazaki